

## クリスマスを迎えるこの日

招詞 マルコによる福音書1章 2節

聖書 イザヤ書 35章 1節～10節

2023年12月10日 遠藤清賢

今年は24日がクリスマスの礼拝です。私は72回目のクリスマスを迎えることになりました。子どものころ、若い独身のころ、結婚して家庭を持った頃、そして年老いた今、それぞれのクリスマスの過ごし方は違っていました。子どものころはなんだかよく分からず、ただ楽しい日で美味しいものを食べ、嬉しい日であったと思います。小学生の時は、地域の子ども会があり、人数は50人以上いたと思います。私の地域の子ども会のクリスマス会はお寺で行われました。私の祖父がイエス様のお話を子どもたちにしたのを覚えています。祖父は仙台の教会で洗礼を受けていましたのでお話しに係りになったのだと思います。今考えるとお寺でイエス様のお話ができるのです。クリスマスは特別な宗教行事ではなく、外国の楽しい風習のように思われていたのでしょうか。この辺りはおおらかな捉え方をしていたと思います。独身の頃は、同じ年齢の友人たちとお酒を飲みただ騒ぎながら過ごしていたこともありますが、20歳で信仰を告白しましたので、キリストの誕生について真剣に思いを巡らしていた時期でもありました。当時はどこの教会でも同じように聖夜礼拝の後キャロルに出かけていました。信徒のお宅の前に行き讃美歌を歌ったことを思い出します。今は子どもが教会学校に来なくなり、また、青年たちも教会からいなくなってしまい、いつの間にかクリスマスキャロルは出来なくなってしまいました。キャロルの後、教会に戻り甘酒を頂いたことを懐かしく思い出します。私の娘たちはそれぞれ結婚し、年老いた今は妻と二人だけのクリスマスですがこのように教会に来て礼拝に参加できることがとても嬉しく、心から感謝できるのです。そしてクリスマスをこのように準備し、メッセージを聴くことをとても尊い大切な時を頂いていることが心から感謝できるのです。

クリスマスを迎えるにあたって人々は様々な思いを持つことでしょう。聖書に書かれている最初のクリスマスでは、ヘロデは自分の地位を脅かす者が誕生するということでその年に生まれたすべての男の子を抹殺してしまいました。東方にいた3人の博士は救い主の誕生に心を躍らせ実際にベツレヘムのナザレに出かけ、主に面会したと書かれています。しかし、その他の多くの人たちは主イエスの誕生があったこと等知る由もなかったと思います。

今の世の中で心からこの日を感謝し喜んで迎えることができる人はどのくらい居るのでしょうか。パレスチナ、ウクライナ、ロシアのように戦争の真ただ中にある人たちは喜びや楽しい気持ちでこのクリスマスを迎えることはできないでしょう。貧困の中で過ごしている人たちはどのようにクリスマスを迎えるのでしょうか。信仰の無いイエス様を信じていない人たちでも12月24日はクリスマスであることを知っています。この日のイエス様が誕生したことの意味を理解している人はほとんどいないと思います。しかし、このクリスマスは、世界中の人たちにとって特別な日であり、多くの人が忘れかけている優しい心を思い出させてくれる日であることを、多くの人たちが理解していることはとても不思議なことだと私は思います。

しかし現在の社会は、この良き日を苦しみや悲しみの中で迎えなければならない人たちが毎年増えていくように思われます。そして世界中で大半の人たちは喜びのクリスマスを迎えることができない人たちではないのかと想像します。特にウクライナ、ロシア、イスラエル、パレスチナでの戦争は私たちと同じ神様を信じている者同士の戦争です。聖書に書かれている「人を殺してはならない。」という神様の言葉を原理主義的な信仰のゆえに大切な命をお互いに抹殺しようとする人間の行為は、私たちは全く理解することができません。人間は徐々に本当の神様を見失い、正しい生き方ができない世界になっているように思います。戦争のない私たちの日本でも、虐待、家族でのDV、ストーカー殺人、何の理由もなく人を殺してしまう人、自分だけが満たされれば良いと思う人、様々な欲望に自分を見失い満たされない日常を生活している人たち、そして孤独の中で一人寂しく生活している人たちが何と多いことでしょうか。他者の思いをどうしても良いと無視し、自分の思いを強制的に押し付けようとしてしまう社会になってしまったのは、どうしてなのでしょう。自国防衛のためにということで兵器を持つことがこんなにも簡単に許されてしまう社会に何か恐ろしさを感じてしまいます。人間はなんと愚かな者になってしまったのでしょうか。自分の命がこの世に誕生し、多くの人たちの愛情によって育まれてきたこと等、見んな忘れ去っているようです。

2023年のクリスマスを迎えるにあたり私たちが祈らなければならないのは、争いのない戦争のない平和な世界になること、世界中の人たちが毎日の食事ができること、安心して住むことのできる家を持ち、社会生活を営む仕事ができること、身近な人たちとお互いに信頼し、共に力を合わせ生きること、自然を守り環境を汚さないこと、そのようなことを祈らなければならないと思います。たとえ多くの困難があっても、全世界の人が全て喜んで生きることができると目指して欲しい。

多くの人たちが幸せに少しでも近づくためには、神様から教えて頂いたお互いに愛し合って生きる心を取り戻すことです。愛する心はどんな人たちにも備わっています。太陽の光や雨や雪、森や海等、自然の恵みがすべての生き物に分け隔てなく与えられているように、人を愛する心、命を大切にすることは全ての人に備わっていて、他者を助け、支えあって生きることが正しい行為であることも分かっているのですが、憎しみや妬み等、争いごとは今でも絶えることがありません。しかもこの争いは増え続けています。戦争で悲惨な状況の中で子どもや女性たち、お年寄りたちが数えきれないほど死んでいるのです。私たちの日本は平和であるように感じますが戦争をするための軍備が増強され、防衛のための軍備増強のために税金を使う事は赦されるという風潮になっています。本当に平和なのでしょう。憲法9条の戦争をしない一切の武器を持たないという条項は現実に守られていません。人間は何のために戦争をするのか、自己防衛のために武器を持ちさらに高性能な武器を開発し使用することは正しい行為であると、断言できるのでしょうか。人を殺すための武器を持つことは、軍備を拡張することは正しいことであるという社会になってしまいました。このままでは人間が自分自身で自分の生活している環境を破壊し、お互いの命を抹殺し合う世界になってしまそうです。

主イエス・キリストの誕生は私たち自身の生き方や心の在り方を振り返る時なのかもしれません。主がどうしてこの世にキリストを誕生させたのか、人間の罪を贖い、人間が自らの命を再生するために神様が救い主をこの世に誕生させて下さったことを深く心に刻む日です。全ての人間が主の誕生を心から感謝し、喜び、お互いに支え合い、良き未来になりますように心を合わせて祈り合うことができる世界になりますように、祈りたいと思います。